

教育広報

かけはし

第52号 平成13年12月6日発行
千代田区教育委員会



風を切る 真っしぐらに — 千代田区立小・中学校陸上競技大会

主 ☆「中学校将来像検討区民会議」
な を開催しました
記 ☆千代田の子どもたちの体験Ⅱ
事 ほめられる・しかられる体験

スタンドの声援がうれしい
みんなの応援が僕らの力になる
全力を尽くす ゴールをめざして

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

新たな中等教育の将来像をめざして『中学校将来像検討区民会議』を開催しました

中等教育の将来像へ 区民の意見を反映

教育委員会では、中高一貫教育の導入など新たな中等教育の将来像を示した「教育委員会試案」を作成しました。これについての意見を伺うため、区民の代表からなる『中学校将来像検討区民会議』（座長・清水誠治教育委員会次長）を8月末に設置し、4回の会議を開催しました。

主なご意見をここに紹介します。これらのご意見は、次に作成する「千代田区の中等教育の将来像素案」を考えるなかで生かしていきます。

— 中等教育将来像試案への主な意見 —

◆適正規模は1学年3～4クラス

○学校が小規模になると、人間関係が固定化し、意識的に序列関係を生むので、クラス替えは必要。○小規模校だと、できるスポーツや特別活動が限られ不自由を感じる。

◆中高一貫教育に賛成

○子どもたちの個性や、特長を生かしていける学校づくりが必要。○継続的に子どもたちの発達を把握し、6年間の一貫した教育ができる。○自己の責任で進路を選択できるよう6年間でバックアップしてくれるよいシステム。○区立中、私立中への進学が半々の状況にあり、進路選択に幅ができてくるので、子どものタイプに応じて学校を選べる。

◆中高一貫教育は心配

○入学希望者が多数の場合、選考の仕方がむずかしい。○受験がなく高校へ進めるので、学力が低下し大学受験で苦労するのでは。

◆在来型中学校の充実に期待

○中等教育学校にばかり力を入れるのではなく、在来型中学校も良くしてほしい。○3年後を見通し、入学時からの進路指導を計画的に行うことが大切。

「中学校将来像検討区民会議」構成メンバー

学校関係者、保護者、町会長、文化・スポーツ団体代表、区政モニター等 17名

千代田区の中等教育将来像試案のポイント

1 適正規模の基本的な考え方

- ① 人との関わりの中で社会性や豊かな人間性を育てる。
- ② 集団活動の活性化により、自己の能力や適正を磨く。

2 中学校の適正規模

学級数 12学級（1学年4学級・1学級30～40人）
生徒数 1学校あたり300～400人
学校数 3校程度

3 中等教育のあり方

- ① 区立中等教育学校（6年制中高一貫校）を1校新設 - 区内の都立高校と中学校を母体とした設立を検討
- ② 在来型中学校（3年制）2校の充実と特色化

4 学校自由選択制（通学区域の弾力化）

生徒と保護者は、千代田区全域を対象に、中等教育学校及び在来型中学校の中から学校を選択

* 中等教育将来像試案の全文は、区ホームページ <http://www.city.chiyoda.tokyo.jp> でご覧になれます。

◆在来型中学校は学力重視で配置も考える

○基礎学力の向上が重視されるべきで、それ以外の特色はあまり考えなくてもいいのではないかと。○2校とも高校受験に力を入れる学校がよい。資質や心を育てる部分は、幼児教育からの流れの中で、一貫して大きく育てるべきで、中学校の特色化によってのみ考えるものではない。○在来型中学校は、生徒が自然と集まるような、魅力ある学校を残す必要がある。○区としての考えを、なるべく早く宣言すべきだ。

◆もっと小学校・中学校の交流を

○普段から小・中の交流をもっと深め、連携を図ってほしい。

◆中学校の配置に関して

○私立の進学校と同じようなことでなく、個人の才能を伸ばすということを前面に打ち出してほしい。配置に関しては、在来型中学校は麴町、神田地区1校ずつで間に中高一貫校を置く。○今は計画的に組織の改編や教育の再編をしていく時期であり、統廃合問題ととらえるべきではないと思う。○区内であったら、交通の心配はなくどこでも通える。どこに配置したら、子どもたちが生き生きと学校生活を送れるかという事を考えたほうがよい。

【問合せ】教育環境整備担当課

千代田の子どもたちの体験Ⅱ ほめられる・しかられる体験



一、調査の概要

① 目的

子どもたちの成長にとって「ほめられる・しかられる」体験は、欠かせない大切なものです。

「しかられる」体験は社会のルールや物事の道理を教え、「ほめられる」体験は、自信や自尊心を育てます。

しかし、子どもをしかれない親や何をどうほめ、どうしかればよいのか自信を失い、しつけにとまどっている親が増えてきているとも言われています。

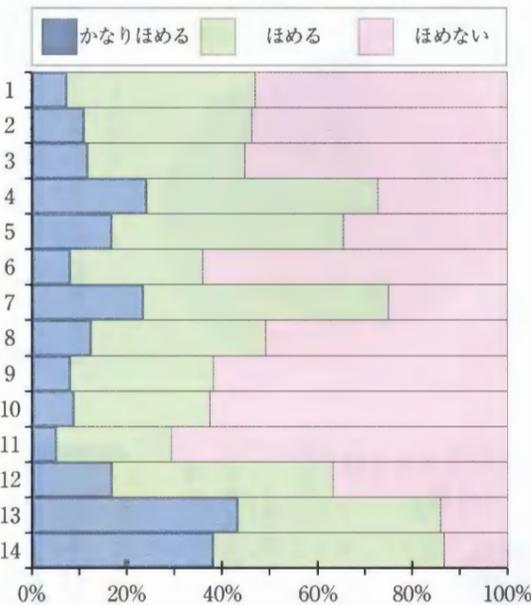
そこで、千代田の子どもたちほどのような「ほめられる・しかられる」体験をしているか、その様相を探ろうと調査を実施しました。

② 方法

- ・質問紙法によるアンケート調査
- ・小学校五年生 三百七十八名（八校）
- ・中学校二年生 三百八十一名（五校）
- ・平成十三年七月中旬実施

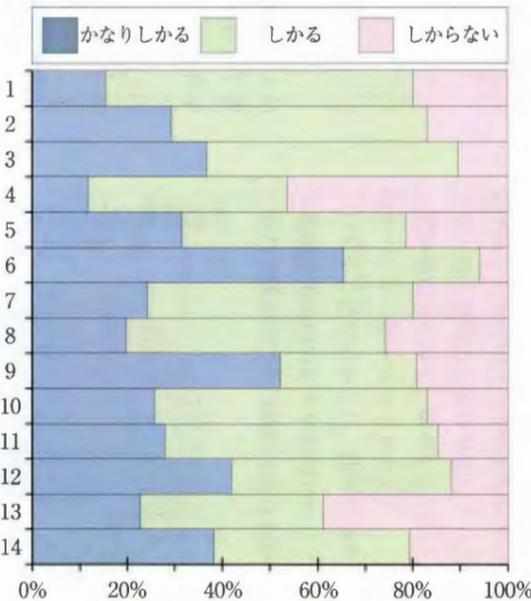
あなたが次のようなことをしたら、家の人はほめるといいますか、ほめないといいますか。

1. 近所の人に自分から進んであいさつをする。
2. 寝る時間やテレビを見る時間を決めた通りに守る。
3. 嫌いなものでも文句を言わずに食べる。
4. 電車の中でお年寄りや小さい子どもに席を譲る。
5. 地域のゴミ拾いや草取りなどの活動に参加する。
6. 友だちとけんかをして自分から仲直りする。
7. 家の手伝いを進んでする。
8. 「ありがとう」「ごめんさい」を素直に言う。
9. おこづかいを計画的に使う。
10. 鉛筆や消しゴムを大切に最後まで使う。
11. にじや夕焼けなどの美しさを見て親にそれを話す。
12. 小さい生き物（メダカや草花など）を大切に育てる。
13. 学校や塾でよい成績をとる。
14. 運動会やスポーツ大会でよい成績をとる。



あなたが次のようなことをしたら、家の人はしかられるといいますか、しかられないといいますか。

1. 親が近所の人に挨拶をしたのに知らん顔をしている。
2. 自分の部屋や机を何日も散らかしたままにしている。
3. 人が大勢いる所で、大声を出してふざける。
4. 電車やバスの中で飲んだり食べたりする。
5. 列に割り込んで、切符を買ったり乗ったりする。
6. 親に対して「うるせえ」「くそばあ」と言う。
7. 親に何度呼ばれても返事をしない。
8. 自分の欲しい物を買ってくれるまでねだり続ける。
9. お金を持ち出して欲しい物を買ったり買い食いする。
10. 道端や公園の草花を折ったり蹴散らしたりする。
11. ハトや池のコイなどに石を投げる。
12. 塾やおけいこごとをさぼる。
13. 学校や塾のテストで悪い点をとる。
14. 明日からテストなのに勉強しないで遊んでいる。



二、アンケート結果から

親は子どもをよくほめ、よくしかる

ほめられる体験・しかられる体験全体をそれぞれ合計してみると、かなりほめる・ほめるが55%、かなりしかる・しかるが80%でした。
 予想に反して親は子どもをよくほめ、よくしかるということがわかります。
 親は子どもを適切にほめたりしかったりすることができなくなっていると言われています。
 しかし、本区の小・中学生の親は、ほめたり・しかったりすることで子どもと深くかかわっていると言えそうです。

成績がよいと親はよくほめる

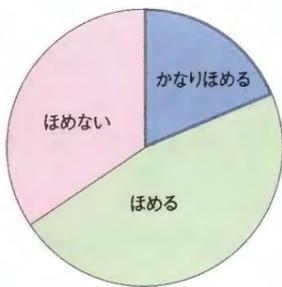
「学校や塾でよい成績をとる」のかなりほめるが44%、「運動会やスポーツ大会でよい成績をとる」のかなりほめるが39%です。
 ほめるを合わせると86%の親がほめています。
 また、「塾やおけいごとをさばる」と、かなりしかるが43%、「明日からテストな

のに勉強しないでゲームなどをして遊んでいる」と、かなりしかるは、39%でした。
 学習やスポーツの成績に対する親の関心の強いことを示すとともに、子どもに対する期待度が高いことも推測できます。

親はほめて「こころ」を育てる

4の「電車の中でお年寄りや小さい子どもに席をゆずる」や5、7、8、12のかなりほめる・ほめるが平均で65%でした。
 これらの項目に共通するのは思いやりや生命を大切にす等「こころ」を育てることにかかわるものです。

心を育てるほめられ体験



具体的な行動としてあらわれた時にささずほめることで「こころ」を育てようとする親の姿勢がうかがえます。

一方、11の「にじや夕焼けなどの美しさを見て、親にそれを話す」をかなりほめるは6%でした。

これは、にじや夕焼けを見るときに自然体験の機会が少ないことと関係があるのかもしれない。

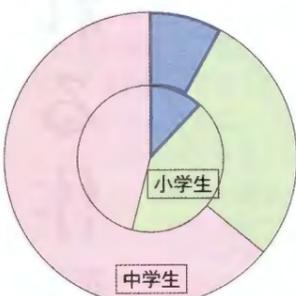
千代田区の子どもの自然体験の不足は、昨年度の体験調査Iでも明らかになっています。

子どもの感性をより豊かにするには、少ない機会を上手に生かして親が一言ほめることが大切なのではないでしょうか。

基本的な生活習慣やしつけは小さい時に

ほめられる体験の2の「ねる時間やテレビを見る時間を決めた通りに守る」や1、3について小学生と中学生を比べてみました。

生活習慣やしつけのほめられ体験 小、中学生の比較

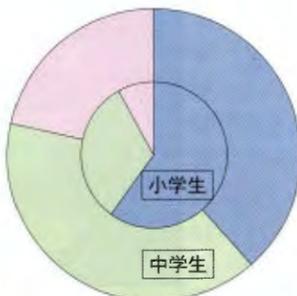


ほめる場合もしかる場合も小・中でのかなりの差があることがわかります。
 これらの項目はすべて、基本的な生活習慣やしつけに関するものです。
 低年齢のうちから、ほめたりしかったりして、しっかりしつけておきたいという親の気持ちが中学生よりも小学生の方に高い割合となっており、あらわされたものと言えそうです。



かなりほめる・ほめるが小学生で53%、中学生が38%でした。
 同様に、しかられる体験の6「親に対して「うるせえ」「くそばあ」と言う」や2「自分の部屋や机を何日も散らかしたままにしている」、9について小・中を比較してみました。
 かなりしかる・しかるが小学生で92%、中学生で79%でした。

生活習慣やしつけのしかられ体験 小、中学生の比較



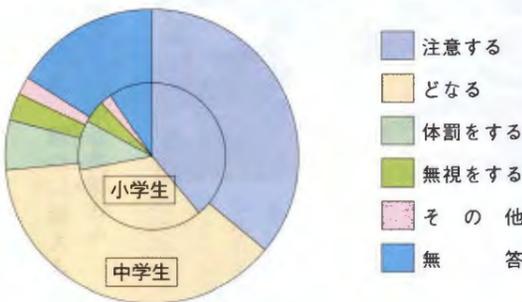
ほめるのもしかるのも言葉で

うちの人がどのようにほめてくれるかについても調べてみました。
 言葉でほめてくれるが44%、言葉でしかる(注意する)が68%でした。
 ほめるのもしかるのも言葉でというのが当たり前ですが、多くありました。
 ほめ方の中に「どこかに連れて行ってくれる」や「お金をくれる」のような何らかの報酬と引き替えにほめてくれるのが26%ありました。
 このようなほめ方も時には有効でしょうが、この数値はやや高すぎるように思われます。

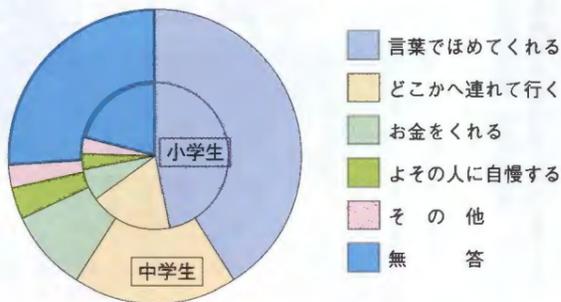
しかる方についても、「体罰をする」や「無視する」が14%ありました。
 子どもたちにとっても体罰や無視されることはつらい経験として心にいつまでも残っていることが記述からもよみとれました。
 しかる内容にもよるのですが、有効なしかる方かどうかはさらに踏み込んだ調査が必要だと思われます。



家の人は、どのようにしかりますか。多い順に2つ選んで○をつけてください。



家の人は、どのようにほめてくれますか。多い順に2つ選んで○をつけてください。



心に残ったほめられたこと・しかられたこと

○今までで、しかられて、一番つらかったのはどんな時ですか。(上位3位まで)

1. 学校や塾の成績が下がったり、怠けたりしてしかられたとき
2. けんかをしたり相手の気持ちを傷つけたりしてしかられたとき
3. 片づけや挨拶など生活習慣が乱れてしかられたとき

○今までで、ほめられて、一番うれしかったのはどんな時ですか。(上位3位まで)

1. 学校や塾の成績が上がって、ほめられたとき
2. スポーツ大会や運動会などでよい成績をとってほめられたとき
3. 家の手伝いを進んでしてほめられたとき

「ほめられて一番うれしかったこと」「しかられて一番つらかったこと」も、やはり成績に関するものが圧倒的に多くありました。
 なかには、「お母さんが熱を出したときに、おかゆを作ってあげたら、『世界』おいしい料理よ。」と言われたこと」と言うような印象に残る記述も見られました。
 親は子どもの心に響くほめ方・しかり方をしたいものです。

三、まとめ

調査結果を見ると、全項目「ほめられない」「しかられない」子どもが少数ですがいました。

親が子どもの行動に全く無関心なのかと気になる結果でした。
 ほめたりしかったりすることは親の日常の生きていく姿勢がそのまま現れるものだと思います。

ほめること・しかることは子どもの心の成長に際してどちらも必要であり、また、その上手なバランスの取り方が今、求められているのではないのでしょうか。

アンケートの結果をご覧になって、ご家庭で話し合っていただければ幸いです。

アンケートに関するお問合せ
 千代田区教育研究所
 ☎ 03-3256-8446
 担当 土井・岡根

夢の課外授業

夢のある人材の育成を目的とする二十一世紀倶楽部主催「夢の課外授業」が、区立3小学校で開催されました。

麹町小 「あきらめない」「ひとつのことをやり遂げる」 舞の海さん

九段小 「少しリラックス、誰かに伝えよう」と思っ読もう」 中井美穂さん

番町小 「反省はするけど、くよくよするな、前向きに生きよう！」 宮本和知さん

10月26日(金)に元大相撲力士の舞の海さんが麹町小6年生に夢の課外授業を行いました。

小柄だけれど相撲に打ち込んだ少年時代や、勝てなくなった時の苦しさなどについて語り、「何度もやめようと思ったけれど、始めた時の気持ちを思い出して、続けたことがよかった」「あきらめるのは簡単。一つの事をやり遂げる、これが大事」と「夢に向かって挑戦する」ことを呼びかけました。

その後児童10名と相撲を取り、「ねこだまし」や「八双跳び」を紹介し、全員に四股の踏み方を伝授しました。

児童代表のお礼の言葉には「一生懸命技を鍛えた舞の海さんのように私も挑戦したい」と決意表明がありました。



フリーア ナウンサーの中井美穂さんが、10月30日(火)に九段小5年生に朗読の授業を行いました。

中井さんは、早口ことはやニュース原稿を子どもたちと一緒に読み、「誰かに伝えるつもりで読もう」とポイントを紹介しました。次に子どもたちが自分で考えた「CM原稿」を読み、「最後に商品名を大きな声で読もう」などのアドバイスを受けました。

「アナウンサーになるには?」「好きだった教科は?」などの質問に、「元気で人と話すことが好きな人、色々なことに興味のある人、体が丈夫な人が向いている」「音楽と国語、算数は苦手。好きなことを一生懸命やって、苦手もたまにはやってみようかな」とひとつひとつ丁寧に答え、終始笑いのこぼれる和やかな授業となりました。

11月9日(金)に元読売巨人軍投手の宮本和知さんが番町小5年生に野球の指導と講演を行いました。

宮本さんがキャッチボールをコーチすると、子どもたちから「教え方がやさしい」「プロは違う」との声が、次にボールの握り方を紹介すると「カーブは?」「シュートは?」と質問が飛びました。「ストライクアウト」では宮本さんの「二枚抜き」に大歓声が上がりました。講演では「どうすれば夢が実現するか考えよう」と切り出し「失敗は仕方がない。スポーツも勉強も反省して、次にいこう。わからないことは先生に聞こう。恥ずかしいことじゃないよ」と励まし、最後に「プレッシャーが快感になるくらい前向きに生きよう」と呼びかけました。



児童の「宮本先生のように巨人軍の投手になりたい」とのことばに宮本さんは「ぜひがんばってください」とエールを送りました。

アラブ首長国連邦 学校教育視察団が来校

9月18日(火)、アラブ首長国連邦のコウラ・イブラヒム・アル・ムアラ教育行政担当次官補ら4名が日本の情報教育の視察のため、昌平小学校を訪問しました。

昌平小では、歓迎会を開催し、子どもたち全員で「アッサラーム・アレイコム(アラビア語でこんにちは)」などの挨拶をし、視察団を驚かせました。

その後、折鶴の首飾り贈呈、児童代表の歓迎のあいさつ、金管バンドによるソーラン節、ドレミの歌の演奏を披露しました。

視察団からは、アラブ首長国連邦の小学生が描いたラクダレースの絵画が贈られました。

一行はその後、コンピュータ授業や昌平小の施設などを視察しました。



二学期の出来事

より速く より高く より遠くへ 小・中学校 陸上競技大会

10月4日(木)、平成13年度千代田区立小・中学校陸上競技大会が国立霞ヶ丘競技場で開催されました。

小学校5、6年生の児童、中学校の生徒と嬌恋村の中学生代表選手が日頃の練習で鍛えた力と技を競い合いました。



やったね!

大会新記録

小5女子100m走 記録15秒00

柳田織江さん(番町小)

中3男子100m走 記録11秒57

高木佑典さん(九段中)

中3男子400mリレー

記録47秒11 九段中

永井慎一さん、斎藤廣介さん、中村浩一さん、高木佑典さん

「マグロ解体ショー」見学



10月16日(火)、富士見小4年生64名が、飯田橋セントラルプラザで開催された「マグロ解体ショー」(主催東都魚さい処理協同組合)を見学しました。

体長約1.5m、重さ20kgの大きなきばだまぐろと職人さんの手際よい包丁さばきに児童から驚きの声があがりました。

一般家庭で食べるまぐろは全体のおよそ60%で、残り40%の頭や背骨などのあらは、医薬品、化粧品、石けん、家畜飼料等の資源に利用されていることを聞きました。

子どもたちからは「残った部分はリサイクルしている」と聞いてすごいと思ったなどが聞かれました。

この日おろされたまぐろは、翌日学校でムニエルに調理して食べました。



青々とした葉のついた大根を収穫しました
嬌恋自然体験交流教室



みんなでやきいもを作り食べました
千代田幼



いせいのよいかげ声が響きました
連合文化祭 練成祝太鼓 練成中

随想

きょういく

戊辰戦争に敗れ困窮状態に陥った長岡藩に明治三年五月、近隣の三根山藩から救援米百俵が届けられた。だが大参事・小林虎三郎は「国（藩）が興るのも滅びるのも、ことごとく人にある」と分配を迫る藩士を説得、救援米を売却し「国漢学校」の運営に充てた。虎三郎の教育第一主義の精神は脈々と受け継がれ、長岡からは各界に有為な人材が数多く輩出された。

小泉首相の国会演説で俄然脚光を浴びた『米百俵』の逸話、首相演説の主眼は聖域なき改革の推進に当たり、国民に相應の覚悟を求めたものだったが、社会の盛衰を左右するのは人材だ、とする教育重視の例話としても説得力があった。

万人の共感を呼ぶ感動の物語——だが角度を変えれば、別の姿が見えてくる。

(1)長岡藩が苦境に陥ったのは、新鋭兵器の調達に大金を注ぎ込み軍備拡張に走った結果だ。非武装中立こそ平和への道である。防衛費をそっくり教育費に回すことこそ、真の『米百俵』の精神だ。

(2)政府軍に和議を申し入れたが決裂、降伏か戦争かの岐路に立った長岡藩は不利を承知で、奥羽越前藩同盟の信義を貫いた。また救援米の処理では将来に備え飢餓に耐えた。打算的、享楽的な気風が蔓延する現在、日本人よ、祖先が持っていた美徳を思い出せ！と叫びたい。

(3)「現在の苦痛に耐えて……」が肥大化し独り歩きをすれば、「欲しがりません勝つまでは」の精神万能主義へと傾斜する。過度の「感情移入」は禁物だ。

(4)書店には『米百俵』の関連本が並んでいる。民間業者のブームに対する機敏な反応は実に見事、公務員は見習って欲しい。またこの先見性やフアイトがなけ



『米百俵』随想

—見習うべきは和魂洋才教育—

横山安宏



れば、変化の時代は生き抜けない。

(5)山本有三の戯曲(昭和18)が9月の歌舞伎座に復活した。意外性に乏しく、派手な殺陣もない台詞が命の芝居、となれば中村吉右衛門はまさに適役、劇評も「血を吐くようなセリフは圧巻」と絶賛していた。絶妙の台詞回しは先代(祖父)譲りだ。「選ばれし者」とは本来、天賦の才を

猛勉強で磨き、与えられた「社会的責任」を果たす人を指す言葉だろう。

(6)藩祖の遺訓「常在戦場」常に戦場にあり」を、日常座右の銘としてきた長岡藩士である。「武士は食わねど高楊枝」の瘦せ我慢の覚悟はできているはずだ。刀を抜いて「飯を食わせろ」と喚くような見苦しい行動は、有り得ないと思う。

(7)小林虎三郎は吉田松陰(寅次郎)と共に佐久間象山に師事、「象門の二トラ」と呼ばれた秀才だ。が、知名度は格段の差、松陰の弟子は明治政府の中樞を占めた。長岡の逸材は学問・芸術等の分野に進出した。師匠の評価も官民格差か？

(8)「国漢学校」の名は古典・漢籍重視の方針を示している。「和魂洋才」の教育である。長岡藩に限らず明治人は文明開化の旗印を掲げ、西欧文化の摂取を急ぎながらも和魂を堅持した。「賢者は歴史に学ぶ」という。我々も見習おう。

浅学を顧みず、推測や願望を混じえて『米百俵』の感想を羅列した。小論の趣旨は「多面的な見方」である。一種の頭の体操としてご一読願いたい。○を一つ付けるとすれば筆者は(8)だ。パソコン操作も巧みでお辞儀もできる子供、それを育てるのが学校だ、と思うからである。

よこやま やすひろ
千代田区教育委員長
元麹町小学校長・幼稚園長

編集後記

花小金井学園や箱根高原学校の職員の話では、今年の紅葉の見ごろは例年より遅く、あつという間に散ってしまいました。色が、あざやかさは近年にないほど見事なものだったそうです。

今号では、子どもたちのほめられる・しかられる体験のアンケート結果を紹介しました。しかることは日常茶飯事でも、ちよとしたことではほめることはなかなか難しいのではないのでしょうか。子どもにしてみれば、ほめてもらえらると思っただけでも、しかられてしまうことは多々あるような気がします。しつつけとしての「しかる」ことと「ほめる」ことは対極にあるようで、実は表裏一体なのだと思えました。

中等教育の将来像について、委員から様々な意見が出されました。こうした貴重な意見を基に素案が作られます。素案については区広報や「かけはし」紙上で、今後も情報提供をしていきます。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。

きょういく

随想

教育広報「かけはし」第五十二号
平成13年12月6日発行
編集発行／千代田区教育委員会
102-8688 千代田区九段南1-6-11
03(326)4211-1 内3114